



この蘇鉄は、明治四十三年（一九一〇）六月、丹原高等学校の前身である周桑農委学校の第一回入学生が三年生のときに、周桑郡田野村大字北田野市助（現在、西条市丹原町北田野）の三願寺跡から移植された。樹齢は、推定二百年から三百年、根回り九・三m、樹高は三・五m、枝張り東西十・八m、南北六・一mである。移植時、幹の高さは二・五mから三m、四、五株であったという。

三願寺は、江戸期より前は明らかでないが、相当地に由緒ある寺であったようである。元和年間（一六一五〜一六二二）に大洪水によって流出、承久二年（一六五三）に再建されたが天明年間（一七八一〜一七八八）には廢寺となり、明治初期までは小堂を結んで維持されていた。

この小堂の時期に京から訪れた一人の僧（或いは山伏ともいわれる）が住みつき祈禱を始めた。

後世「和尚はん」と崇められた「法如和尚」（文政二年（一八一九）歿）である。

和尚については、次のような逸話が伝えられている。

『或るとき、急に和尚さんは小僧に戸口の井戸から水を汲ませて、堂前の蘇鉄のもとに掛けた。小僧が不思議に思いその訳を聞くと、和尚は、「いま京の本山が火事だから水を掛けて消したのだ。」と答えた。後日に至り、本山から火災鐘火の礼状が届いたという。』

愛媛県立丹原高等学校 校史

周桑郡立農業補習学校（明治三十四年四月一日）  
 周桑郡立周桑農業学校（明治三十六年四月一日）  
 周桑郡立周桑農委学校（明治四十年五月一日）  
 周桑郡立高等女学校（大正九年四月一日）（大正十一年県立移管）  
 愛媛県立周桑高等学校（昭和二十三年四月一日）  
 愛媛県立丹原高等学校（昭和二十四年九月一日）

平成十八年四月